

平成26年度 自己点検・評価に係る報告書

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署	
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置							
1・教育に関する事項 (1) 入学者の確保	<p>①入学者(入学志願者)の確保と入学志願者の学力水準の維持・向上を図るため、種々の手段により中学校長や中学校PTAなどの組織への広報活動を行うとともに、外部メディアの活用を含む広範な広報活動を展開する。</p>	<p>①入学者(入学志願者)の確保と入学志願者の学力水準の維持・向上を図るため、種々の手段により、地域社会への積極的な広報活動を展開する。 ○広報活動を対象とする地域を可能な限り広域化し、県内外の中学校をはじめ、学習塾に対する広報活動も継続する。 ○鳥取県内の校長に対する学校説明会及び近隣地区の中学校校長会に参加し、校長から高専のPRをする。 ○中学校関係者をはじめ学習塾の関係者を招いた入試説明会を実施する。 ○入学アンケートの結果を基に入試広報資料の有効性を検証し、改善する。 ○本科3、4、5年生に対して専攻科のPRを実施する。 ○専攻科のホームページの充実を図る。 ○専攻科のパンフレットの充実を図る。 ○専攻科の掲示板の充実を図る。 ○広報室を通して、情報の一元化を図るとともに、広報業務の一層の充実と効率化を図る。 ○広報対象とする地域、団体ごとに有効な広報策を検討し、外部メディアの活用も含む広範な広報活動を実施する。</p>	<p>○広報活動を対象とする地域を可能な限り広域化し、県内外の中学校をはじめ、学習塾に対する広報活動も継続した。特に東部の中学校数校で新しく入試説明会に参入した(6～10月実施済)。 ○鳥取県内の校長に対する学校説明会及び近隣地区の中学校校長会に参加し、校長から高専のPRをした(5月実施済)。 ○中学校関係者をはじめ学習塾の関係者を招いた入試説明会を実施した(9～10月実施済)。 ○学科長会議で入学生アンケートの結果を基に入試広報資料の有効性を検証した(5月実施済)。 ○5年生に対しては保護者懇談会で専攻科のパンフレットを配布しPRした(7月実施済)。 ○4年生に対しては各クラスに対して専攻科説明会を実施した(12月～1月実施済)。 ○3年生に対しては学年合同HRで専攻科の説明をした(1月実施済)。 ○専攻科ホームページはJABEE関連事項を改訂し(4月実施済)、専攻科の特色ある教育の紹介などを追加した(随時実施)。 ○専攻科パンフレットを改訂し充実を図った(12月実施済)。 ○専攻科掲示板へ専攻科関連情報を掲載し充実を図った(随時実施)。 ○前年度に新設した広報室体制を継続し、広報室打ち合わせを適時開催し、情報の一元化と充実、業務の効率化を図っている(3月現在、8回開催。その他メール等による情報共有も行っている)。今年度は、校外向けHPのリニューアルに注力した。また、広報室が中心となって、女子中学生をターゲットとした『高専女子百科 Jr. 米子高専版』を制作した。 ○中海テレビ(鳥取県民チャンネル)を通じた「知的セミナー」による本校教員の研究紹介(地域へのPR)を継続した(機関別認証評価において評価された)。9月に開催された「とっとり産業フェスティバル」において、広報室としてのブースを出展し、参加企業・一般来場者等への広報活動を行った。日本海新聞(11/9付)に本校創立50周年に関する特集ページを掲載し、地域に対する広報活動を行った。地元無料情報誌「こはく」(平成27年4月号)が本校の特集号として発行されることとなり、取材に協力した。</p>			達成した。	教務部 専攻科 広報室
	<p>②入試説明会、オープンキャンパス等の広報活動を充実させ、入学志願者の確保と学力水準の維持・向上を図る。特に女子学生の志願者確保に向けた取組を推進する。</p>	<p>②入試説明会やオープンキャンパスを充実させる。 ○毎年オープンキャンパスを実施するとともに、開催方法も含めて検討する。 ○個別の訪問見学を受け付ける。 ○機構で作成する女子中学生向けパンフレット等を活用し、女子中学生に対し高専をPRする。</p>	<p>○25年度まで実施していた11月の第2回オープンキャンパスの開催を見直し、8月オープンキャンパスを二日間開催とした。27年度の開催方法についても26年度と同様に8月に二日間開催するという方針を決定した(11月決定済)。 ○オープンキャンパスに参加できなかった中学生をはじめとして、個別の訪問見学を受け付けた(主に9月～11月を中心に実施)。 ○機構で作成する女子中学生向けパンフレット等を活用し、オープンキャンパス等で女子中学生に対し高専のPRを実施した(主に8月のオープンキャンパスで実施)。</p>			達成した。	教務部
	<p>③中学生やその保護者を対象とする広報資料を充実する。 入学者(入学志願者)の確保と入学志願者の学力水準の維持・向上を図るため、外部メディアの活用を含む広範な広報活動を展開する。 ホームページの充実を図る。</p>	<p>③中学生やその保護者を対象とする広報資料を充実し、広範な広報活動を展開する。 ○広報室と連携して本科入学生のためのパンフレットやホームページの充実を図る。 ○広報室と連携して専攻科の魅力発信のためにホームページやパンフレットの充実を図る。 ○広報室を中心として、ホームページや広報資料の内容・在り方を見直し、統一的な広報戦略を立てる。 ○校外向けHPのリニューアルの検討を行い、その充実を図り、随時内容を更新する。 ○機構で作成するパンフレット等を活用し、広報活動を展開する。</p>	<p>○年度末に向けて広報室と連携して本科入学生のためのパンフレットやホームページの充実を図った。 ○オープンキャンパスをはじめとして、機構で作成するパンフレット等を活用し、広報活動を展開した(8月実施済)。 ○専攻科の魅力発信のために広報室と連携してパンフレットの改訂を行った(2月実施済)。 ○専攻科HPのトピックス欄に随時項目を追加して、HPの内容の充実を図った(随時実施)。 ○年度当初に、広報室新設初年度の業務実績並びに今年度の業務計画(予定)の集約を図った上で、広報の内容・在り方の見直しの一環として、7月の保護者懇談会の機会を利用して保護者を対象とした「広報に関するアンケート」を初めて実施した。その結果等を『彦名通信』の内容の充実やホームページのリニューアルの検討に活用した。 ○広報室スタッフ及び各学科・科選出の委員によるHP検討委員会において、校外向けHPのリニューアルの検討を本格化し、現HPの課題等を踏まえて、デザインの一新、機能的アップ、内容の充実等を図った新HPの準備を進めた。特に、中学生向けのコンテンツの充実を図る目的で新規ページを増やした。 ○機構作成の英語版高専ガイドブックを新HPに掲載し、本校の英語版ガイドブックと併せて広報活動に用いることとしている。また、機構との共同で女子中学生をターゲットとした『高専女子百科 Jr. 米子高専版』を制作し、新年度の広報活動において活用することもしている。</p>	<p>○来年度当初に校外向けHPのリニューアル版を公開できるが、これまで以上にHPIによる的確な情報発信、情報の更新などの内容の充実を図ることが課題となる。</p>	<p>○HPIによる情報発信に対する教職員意識を高めるための研修等を行い改善を図る。</p>	達成した。	教務部 専攻科 広報室

米子工業高等専門学校 第3期中期計画		平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
(2) 教育課程 の編成等	④ ものづくりに関心と適性を有する人材を的確に選抜できるように適切な入試を実施する。	④ものづくりに関心と適性を有する人材を的確に選抜できるように適切な入試を実施する。 ○入学生の募集に当たり、中学生、保護者に対し本校のアドミッションポリシー、教育目標を適切に伝える。 ○本科学力試験の手順を年度ごとに検証し、ミスが発生しない有効的な方法を検討し、実施する。 ○編入学試験や専攻科学力試験における外国語試験問題について外国人によるピアレビューを実施する。	○入試説明会、募集要項、HP等により入学生の募集に当たり、中学生、保護者に対し本校のアドミッションポリシー、教育目標を適切に伝えた(5月、10月実施済)。 ○入試までに本科学力試験の手順を検証し、ミスが発生しない有効的な方法を検討し実施した。 ○編入学試験や専攻科学力試験における外国語試験問題について外国人によるピアレビューを実施した(9月、11月実施済)。 ※H24年度からの入試選抜(25年度入試)方法改定に伴う影響を把握するため、内申点・入試成績と1学年末成績との相関を検討し、改訂の影響や入学者学力レベル向上につなげるべく調査を継続している。その結果、選抜方法改定に関して入試成績と入学後の成績との相関は向上して、両者の間には相関係数R=0.6が保たれている。			達成した。	教務部 専攻科
	⑤ 入学者の学力水準の維持に努めるとともに、女子中学生を含めて、入学志願者数の確保に努める。 寄宿舎に関する中・長期計画の策定を基に計画的な整備を推進し、必要に応じて予算要求を行う。	⑤ 入学者の学力水準の維持に努めるとともに、女子中学生を含めて、入学志願者数の確保に努める。 ○物質工学科、建築学科以外の学科への女子学生の入学を推進する方法について検討する。 ○利用者のニーズ、寄宿舎の生活環境等を調査し、寄宿舎に関する中・長期計画策定の基盤を作成する。	○物質工学科、建築学科以外の学科への女子学生の入学を推進するため、女子中学生向けPRパンフ(高専女子百科Jr.)の作成を行った。 ○寮務部で、寄宿舎で生活する女子学生の増加対応を中心に寄宿舎の在り方及び男女比に対する居室の見直しや留学生対応としての補食室等環境整備も含め、中・長期計画の基盤を作成した。財務部門で、この計画の実効性等について検証を行った。	○改修には多額の費用を要することから費用の削減化を図る方策の検討も必要である。	○現状を運営会議等へ報告し、過去の改修及び26年度実施の改修をベースに後年度の取組を検討するための組織(WG)を立ち上げる。	達成した	教務部 事務部
	①-1 15才人口の減少傾向や地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を行う。	①-1 15才人口の減少傾向や地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を行う。 ○15才人口の減少傾向や産業界のニーズ動向、また地域の実情に合わせて学科構成を見直すとともに、専攻科の整備・充実を行う。 ○産業界のニーズ・動向に合わせ、高専機構本部の動きと連動して、本科や専攻科の改組を検討する。	○機構理事長ヒアリング(6月実施)や現況調査(5月実施)等に際して、10年後の15才人口の減少傾向や産業界のニーズ動向、また地域の実情に合わせて学科構成の見直し・専攻科の整備・充実を検討した(将来構想を模索するため産学金官・同窓会・後援会等の有識者からなる教育懇談会を6月より複数回実施済)。 ○産業界のニーズ・動向に合わせ、高専機構本部の動きと連動して、本科や専攻科の改組を検討した(6月～教育懇談会を複数回実施済)。 ○今年度中に上記教育懇談会の打合せ結果をまとめると共に、来年度に向けて将来構想委員会を発足する予定。 ○産業界のニーズ・動向も含めた校長を中心としたWGによるビジョン作りを合わせ、高専機構本部の動きとも連動して、本科や専攻科の改組・充実を現在も検討中である。 ○専攻科カリキュラム改訂に関わる学生への周知のためのガイダンスを年度当初に実施した。また、学位授与機構による特例適用専攻科認定に対する教員の資格審査を受審し、全ての専攻で審査に合格した(10月実施済)。これに基づき新たな学位内部審査の手順と学位申請のあり方を来年度に向けて準備作業・資料作成・実施を行って行く。	○国立高専機構としての高専の将来像に関わる検討状況は、外部機関である「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に関する有識者会議」の方向性を踏まえて深慮する必要があるため、今年度最終まで判断を許さない状況にある。	○本校としては、今年度中に上記教育懇談会の打合せ結果をまとめると共に、来年度に向けて将来構想委員会を発足し具体的対策の策定にかかる予定である。	達成した	運営会議 教務部 専攻科
①-2 定期的に、卒業生・修了生及び採用実績のある企業にアンケートを実施し、産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科・専攻科の大括り化等について検討を行う。	①-2 産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科・専攻科の大括り化等について検討を行う。 ○定期的(原則:1回/5年)に、卒業生・修了生および採用実績のある企業にアンケートを実施しその結果を纏め、点検・評価委員会や運営会議にて審議の後、各部署における改善への具体的取り組みを促す。	○定期的アンケートを念頭に、認証評価訪問調査・JABEE中間審査実地審査に備えた振興協力会企業アンケート(卒業・修了生輩出先)を本年度実施し、教育目標に対する達成状況調査を行った(6月実施済)。 ○上記アンケート結果として、準学士課程卒業生に対して数%程度の学習・教育目標に於けるコミュニケーション力不足の意見も寄せられが、概ね4年制大学卒業生と同等との実力評価が成された。また、専攻科修了生に対しては、ほぼ100%が4年制大学卒業生と同等以上の実力があるとの評価を得ることができた。さらに、これらの結果を運営会議で報告を行い、次年度の企業アンケートに向けた設問内容などに反映することとした(8月実施済)。 ○平成27年度実施予定(原則:1回/5年)の卒業生・修了生および採用実績のある企業に対するアンケートにおいて、設問改定や送り先調査などの準備を行った(10月実施済)。 ○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、教職員の95%がJABEEについて意識して教育活動を実施していることを確認した。平成25年度の89%から向上が見られた(2月実施済)。 ○平成26年度企画部学生アンケートの結果から、専攻科2年生の70%以上、専攻科1年生は100%および本科5学年の50%以上がJABEEについて認識していることを確認した(2月実施済)。			計画を上 回って達成した	運営会議	

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>②本科入学時の基礎学力を把握するための試験を実施する。 教育の改善に資するため、基幹的な科目である「数学」、「物理」について学習到達度試験を実施し、試験結果を分析し、学生の学習到達度を向上させるための教育課程や教授方法の改善に役立てる。 本科及び専攻科でTOEICを義務付け、その結果を基に英語力の強化について検討する。 英語を科目としてだけでなく、実際のコミュニケーションのツールでもあるということ意識させるような大会等への参加を促し、国際的な研修、アカデミックな講習会などへの参加を奨励する。</p>	<p>②入学時の基礎学力を把握するための試験や学習到達度試験を実施し、結果の分析を行う。また、英語については、TOEICを義務付け、英語力を向上させる。 ○入学直後の本科新生を対象に基礎学力試験を実施する。 ○学習到達度試験(「数学」、「物理」)を実施し、教育課程や教授方法の改善に役立てる。 ○本科3年生にTOEIC受験を義務付ける。 ○本科4年生で開講する新しい英語選択科目の内容について検討する。 ○実用英語検定、工業英語検定、TOEICスコアなどで条件を満たした学生に単位認定を行う。 ○TOEICスコアを分析し、英語力を伸張させる教授法について検討する。 ○外国語科と専門科目担当者間で英語力の伸張に関して情報交換する。 ○昨年度の学習到達度試験の結果に基づき、学生の学習到達度が向上する教育を検討し、実施する。 ○英語弁論大会、全国プレゼンテーションコンテスト等への参加を奨励する。 ○TOEIC試験等の資格試験への受験を奨励し、複数回の受験を促し、結果の向上を記録してフィードバックする体制を検討する。 ○低学年(1～3年生)において、授業の中で定期的に語彙テストを行い、学年末に学年ごとの英単語コンテストを実施する。 ○国際大会等に参加する学生のプレゼン等の英語指導を専門学科の教員と連携して行う体制を検討する。</p>	<p>○入学直後の本科新生を対象に基礎学力試験を実施した(4月実施済)。 ○平成27年1月に学習到達度試験(「数学」、「物理」)を実施し、教育課程や教授方法の改善に役立った。 ○本科3年生にTOEIC受験を義務付けている。 ○本科4年生で開講する新しい英語選択科目の内容について検討した。 ○実用英語検定、工業英語検定、TOEICスコアなどで条件を満たした学生に単位認定を行った。 ○TOEICスコアを分析し、英語力を伸張させる教授法について検討した。 ○英語力向上のため、外部講師による初級および中・上級のTOEIC講座をスタートさせた(10月～2月実施済)。 ○外国語科と校長、教務主事を含めて外国語科教員と英語教育懇談会を実施し、今後の英語教育の在り方について議論した(5月実施済)。 ○外国語科と専攻科委員間で英語力の伸張に関して意見交換した(9月実施済)。 ○昨年度の学習到達度試験の結果に基づき、学生の学習到達度が向上する教育を検討した。 ○英語弁論大会、全国プレゼンテーションコンテスト等への参加を奨励している。 ○TOEIC試験等の資格試験への受験を奨励している。 ○低学年(1～3年生)において、授業の中で定期的に語彙テストを行い、学年末に学年ごとの英単語コンテストを実施している。 ○外部講師による初級および中・上級のTOEIC講座の受講者数が伸び悩んでいるため、新たな開講・実施方法を策定し来年度に向けてスタートさせる予定である(なお、参加者の満足度については初級:78%、中・上級:91%であった)。 ○専攻科1学年のTOEICスコアの一覧表を作成し、データベースに追加した(3月実施済)。 ○科目間連絡会を実施し、学習支援方法の見直し、数学・物理・英語科目の教育内容について意見交換を行った(5月実施済)。 ○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、全教員の78%が普段の教育活動の中で他の教員や科目との科目間連携を意識していることを確認した。さらに、具体的な科目間連携の事例の集約も行った(2月実施済)。</p>			達成した。	教務部 専攻科 教養教育科
<p>③ 学生・教職員アンケートを実施し、その結果を纏め各部署における改善に役立てる。 定期的に、卒業生・修了生及び採用実績のある企業にアンケートを実施し、各部署における改善に役立てる。 在校生に授業評価アンケートを実施する。 米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)を活用し、学校改善のため、卒業生との情報交換を行う。</p>	<p>③卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。 ○学生・教職員アンケートを毎年実施しその結果を纏め、点検・評価委員会にて審議・承認の後、各部署における改善への具体的取り組みを促す。また、この調査結果を校内ホームページに公開する。 ○平成27年度に控えた、卒業生・修了生および採用実績のある企業に対するアンケート実施に関する準備業務を行う。 ○在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページで公開する。 ○校内ホームページで公開された授業評価アンケートの結果に対し、授業担当教員がコメントを書き込めるようにする。 ○授業評価の結果を基に、優れた教育実践例を選出し、スキルを磨くためのFD研修会をできるだけ企画する。 ○学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開する。 ○米子高専同窓会総会及び支部(関西・中部)総会、更に米子高専首都圏同窓会総会などと併せて卒業生との情報交換会を実施する。 ○構築中の米子高専卒業生ネットワーク(Ynct-net)の人的基盤である同窓会組織の整備・充実及びYnct-netポータル・サイトなどSNSの利用を推進する。</p>	<p>○平成25年度の学生・教職員アンケートを実施しその結果を纏め、点検・評価委員会にて審議・承認の後、各部署における改善への具体的取り組みを促した(4月実施済)。また、この調査結果を校内ホームページに公開した(4月実施済)。 ○平成25年度の企画部学生アンケート内で学生から指摘のあった図書館の早期リニューアルオープン、体育館の床仕上げの改修などは、平成26年度中に整備が終了し、その効果については平成26年度と同アンケートで使用状況や使いやすさを確認できた。図書館は全学生の58%が利用し、94%が本が充実していると回答している。運動施設は全学生の95%が使いやすい、まあまあ使いやすいと回答している。(2月実施済)。 ○平成26年度企画部学生・教職員アンケートを実施した。(2月実施済)この結果は、平成27年度4月の点検・評価委員会にて報告を行ったのち、詳細な調査報告書を校内ホームページに公開予定である。 ○定期的アンケートを念頭に、認証評価訪問調査・JABEE中間審査実地審査に備えた振興協力企業アンケート(卒業・修了生輩出先)を本年実施し、教育目標に対する達成状況調査を行った(6月実施済)。 当該アンケート結果として、準学士課程卒業生に対して数%程度の学習・教育目標に於けるコミュニケーション力不足の意見も寄せられ、概ね4年制大学卒業生と同等の実力評価が成された。また、専攻科修了生に対しては、ほぼ100%が4年制大学卒業生と同等以上の実力があるとの評価を得ることができた。さらに、これらの結果を運営会議で報告を行い、次年度の企業アンケートに向けた設問内容などに反映することとした(8月実施済)。 ○平成27年度実施予定(原則:1回/5年)の卒業生・修了生および採用実績のある企業に対するアンケートにおいて、設問改定や送り先調査などの準備を行った(10月実施済)。 ○在校生へ授業評価アンケートを実施し、その結果を校内ホームページで公開した(3月実施済)。 ○授業評価アンケート結果に対し、授業担当教員がコメントを書き込めるようにした(3月実施済)。 ○高専機構による「英語授業講義力強化プログラムに参加した教員による報告会」を実施した(6月、2月実施済)。 ○学生による教員顕彰を実施し、評価の高い教員を校内ホームページにて公開した(11月実施済)。 ○第2回米子高専同窓会・中部支部(中部地区卒業生)－米子高専交流会を開催(8月)、教育懇談会(卒業生対象)を開催した(11月実施済)。 ○同窓会組織の整備・充実に向け総会・役員会に参加し意見交換を行う(4月～11月)と共に、Ynct-netポータル利用推進のため、認証システムを再構築(9月)、留学生/留學生OB対象Facebookページを立ち上げ(1月)、Ynct-netポータルとFacebookページとの連携についても検討を始めた(2月)。</p>			計画を上 回って達成 した	企画部 教務部 専攻科 国際交流
<p>④ ロボコン・プロコン・デザコン・CADコン及び高専体育大会への参加を奨励する。</p>	<p>④スポーツ系、文科系クラブなどの全国的な各種競技会等やロボコンコンテストなどの全国的なコンテストへの参加を奨励する。 ○ロボコン・プロコン・デザコン・CADコン及び高専体育大会への参加を奨励する。</p>	<p>○中国地区高専体育大会(7月)、全国高専体育大会(8月)出場学生を支援した。 ○インターハイ(7月～8月)、団体(10月)出場学生を支援した。 ○ロボコン中国大会(10月)、デザコン・プロコン(11月)出場学生を支援した。 ○各種大会やコンテストで優秀な成績を掲示、HP掲載、横断幕などでPRした。</p>	○横断幕等に係る経費確保について検討する必要がある。	○横断幕等に係る経費確保について検討する。	達成した	学生部

米子工業高等専門学校 第3期中期計画		平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
(3) 優れた 教員の 確保	⑤学生会主導による清掃活動を実施するとともに、その活動を点検評価する。 白砂青松アダプトプログラムにボランティアとして継続参加し雪害を受けた松林の再生に取り組む。 寮生会主導による清掃活動やボランティア活動を実施するとともに、その活動を点検評価する。	⑤ボランティア活動などの社会奉仕体験活動を実施する。 ○学生会主導による清掃活動を実施するとともに、その活動を点検評価する。 ○白砂青松アダプトプログラムにボランティアとして継続参加し、雪害を受けた松林の再生に取り組む。 ○粟島神社の清掃及び「われもこよう祭」のお手伝いのボランティア活動を実施する。	○学生会メンバーによる海岸清掃活動を実施した(6月実施済)。 ○白砂青松プログラムによる松林清掃活動の実施(6月)及び樺樹を実施した(11月実施済)。 ○寮生会による以下のボランティア活動を実施した。 ・粟島神社の清掃奉仕 6/26(木)と10/8(水) ・われもこよう祭のお手伝い 10/19(日) ・彦名公民館祭への留学生参加 10/26(日)			計画を上 回って達成 した	学生部 寮務部
	①多様な背景を持つ教員組織とするため、引き続き公募制等を導入し、採用にあたっては適切な配慮を行う。	①多様な背景を持つ教員組織とするため、採用にあたっては、適切な配慮を行う。 ○優れた教育力を有するものを採用するため、募集にあたって募集要項の応募資格に関する見直しと適正化についての記述を積極的に盛り込む。また、教員採用選考に関する組織の見直しを図り、多角的に人物選考ができる体制とする。	○優れた教育力を有するものを採用するため、募集にあたって募集要項の応募資格に関する見直しと適正化についての記述を積極的に盛り込んだ(6月・8月・10月実施済)。 ○また、教員採用選考に関する組織の見直しを図り、教員人事会議等を新規に設立することで多角的に人物選考ができる体制とした(4月より規則を制定し実施済)。			達成した	運営会議
	②教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために可能な範囲で人事交流制度を活用する。	②教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、可能な範囲で人事交流制度を活用する。 ○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼する。 ○各学科・科から提出された資料をもとに、運営会議で受入と派遣計画を策定し、学科長会議に報告する。	○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼した(6月実施済)。 ○各学科・科から提出された資料をもとに、運営会議で受入と派遣計画を策定し、学科長会議に報告した(10月実施済)。			達成した	運営会議
	③専門科目及び一般科目理系については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度な資格を持つ者、理工系以外については修士以上の学位を持つ者や高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を配置する。	③理工系については博士の学位を持つ者や技術士・建築士等の職業上の高度な資格を持つ者、理工系以外については修士以上の学位を持つ者や高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を配置する。 ○教員の学位・高度な資格等を調査し、調査結果に基づき学校要覧や研究シーズ集に掲載する。 ○新任教員募集に当たっては、募集要項の応募資格に学位や高度な資格、教育経験など優れた教育力を有する資格記載を盛り込み採用する人材を吟味する。	○教員の学位・高度な資格等を調査し、調査結果に基づき学校要覧や研究シーズ集に掲載した(6月実施済)。 ○新任教員募集に当たっては、募集要項の応募資格に学位や高度な資格、教育経験など優れた教育力を有する資格記載を盛り込み採用する人材を吟味した(6月・8月・10月実施済)。			達成した	運営会議
	④ 女性教員の比率向上を可能な範囲で図る。 女性教職員に対する、就業環境改善を目的とした整備を行う。	④ 女性教員の比率向上を図る。 ○各学科・科の教員募集要項に女性教員を積極的に募集している旨を記載する。 ○女性教職員の就業環境改善のため、女性用の更衣室、休憩室、トイレ等の整備を可能な範囲で推進する。 ○点検評価によるアンケートを参考に校内施設環境の問題点の洗い出しを行い、見直しの素案を作成する。	○各学科・科の教員募集要項に女性教員を積極的に募集している旨を記載した(6月・8月・10月実施済)。 ○継続的に実施している安全管理に関する施設/パトロールにおいて、点検評価アンケートを踏まえた施設点検及び女性教職員の就業環境改善も含め、狭隘化実態・余剰スペース確認等に関するパトロールを実施し、修繕事項等の洗い出しを行った。	○パトロールの結果、狭隘化は進行しておらず、また、女性教職員に対する新たなスペース確保として、管理部門における倉庫等の集約化等により実現可能な状態にある。しかし、トイレ等衛生面に対する措置はより多くの面積を要することから引き続き検討する必要がある。	○運営会議等で検討するため、インフラ整備検討委員会によるWGを設置し、検討する。	達成した	運営会議 事務部
⑤ 各種FDなどを活用し教員の能力向上を目的とする研修を実施する。また、本校以外で実施される研修等にも教員を積極的に派遣する。 FD活動の一環として、採用2年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力の向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観等を実施する。	⑤ファカルティ・ディベロップメントなど教員の能力向上を目的とした研修を実施する。 ○授業評価結果が優れた教員を選出し、新任教員の授業参観を実施する。 ○FD活動の一環として、採用2年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施する。 ○採用2年以内の新任教員の居室として合同教員室および室長を配置し、導入教育の強化を図る。	○授業評価結果が優れた教員を選出し、新任教員の授業参観を実施した(4月実施済、現在も継続中)。 ○FD活動の一環として、採用3年以内の新任教員の授業力・コミュニケーション能力向上を目的として、ベテラン教員とのペアによる双方向授業参観を実施した(4月実施済、現在も継続中)。 ○採用2年以内の新任教員の居室として合同教員室および室長を配置し、導入教育の強化を図った(4月実施済)。 ○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、FD研修のテーマ設定および内容について、教職員の79%が適切であると考えていることを確認した。特にハイパー-Q-Uアンケートや特別教育支援に関するFD研修会の内容については、教職員の85%がこれらについての教育上の意識が向上したと回答し、教員を中心に58%が教育改善やクラス経営にも役立っていると回答しており、一定の効果があることを確認した(2月実施済)。			達成した	運営会議	

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>⑥機構主催の教員顕彰制度などを活用し、教員の教育活動や生活指導の活性化を奨励する。 毎年度、教育研究活性化経費配分によるインセンティブ付与を行うことで教員の活性化を促す。 点検・評価委員会にて、教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行う。</p>	<p>⑥機構主催の教員顕彰制度などを活用し、教員の教育活動や生活指導の活性化を奨励する。 ○機構主催の教員顕彰制度を活用し、教員の教育活動や生活指導などの取組結果を踏まえ運営会議で教員顕彰推薦に関する人選を行う。 ○前年度の授業評価アンケートおよび課外活動等、教員の教育活動や生活指導の取組結果について調査し、評価基準に基づき評価し運営会議で教育研究活性化経費等の配分を決定する。 ○毎年度、教育研究活性化経費の公募を実施し、応募申請書に対する評価を運営会議メンバーにて行うことでインセンティブ付与による教員の活性化を促す。 ○点検・評価委員会にて、前年度の教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行う。</p>	<p>○機構主催の教員顕彰制度を活用し、教員の教育活動や生活指導などの取組結果を踏まえ運営会議で教員顕彰推薦に関する人選を行った(11月推薦済)。 ○前年度の授業評価アンケートおよび課外活動等、教員の教育活動や生活指導の取組結果について調査し、評価基準に基づき評価し運営会議で教育研究活性化経費等の配分を決定した(9月実施済)。 ○毎年度、教育研究活性化経費の公募を実施し、応募申請書に対する評価を運営会議メンバーにて行うことでインセンティブ付与による教員の活性化を促した(9月実施済)。 ○点検・評価委員会にて、前年度の教育研究活性化経費配分者に対する実施報告書の評価を行った(9月実施済)。</p>			達成した	運営会議 点検・評価委員会
<p>⑦各種の制度を活用して、教員の国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加を促進する。</p>	<p>⑦各種の制度を活用して、教員の国内外の大学等での研究・研修、国際学会への参加を促進する。 ○国内外の大学等での研究・研修に関する情報を適宜メール等で知らせる。 ○教員の国内外の大学等での研究・研修報告をホームページ等に掲載し公表する。 ○長岡・豊橋技科大との連携を図りつつ、「高専・技科大間教員交流制度」を引き続き実施する。</p>	<p>○国内外の大学等での研究・研修に関する情報を適宜メール等で知らせた(4月～実施中)。 ○教員の国内外の大学等での研究・研修報告をホームページ等に掲載し公表した(4月～実施中)。 ○長岡・豊橋技科大との連携を図りつつ、「高専・技科大間教員交流制度」を引き続き実施した(4月～実施中)。</p>			達成した	運営会議
<p>①-1 モデルコアカリキュラムの導入を進める。 「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集などを基に、教育方法の改善を促進する。 ICTを活用した教材及び教材管理システムの利活用について検討する。 本科低学年の学習支援を実施する。</p>	<p>①-1 モデルコアカリキュラムの導入を進めるとともに、エンジニアリングデザイン教育を推進し、ICTを活用した教材及び教材管理システムの利活用を促進する。 ○モデルコアカリキュラムに関する研修会などに参加し、モデルコアカリキュラムに対応するカリキュラムの検討を行い、導入の準備を進める。 ○「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集などを基に、教育方法の改善を促進する。 ○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育環境の整備を継続する。 ○外部資金や企業人材を活用した教育プログラムを実施し、教育内容の充実を図る。 ○専攻科生TAの活用を含めた本科低学年の学習支援を実施する。 ○新任教員に対し、ベテラン教員による双方向授業参観を実施し、講義力アップを図る。 ○教員による編入学生への学習支援を実施する。 ○モデルコアカリキュラムの導入の検討に伴いシラバスの修正を行う。</p>	<p>○モデルコアカリキュラムに関して高専教育フォーラム、平成26年度高等専門学校改革推進事業「Webシラバス」会議などに参加し、モデルコアカリキュラムに対応するカリキュラムの検討を行い、導入の準備を継続している(8月、11月実施済)。 ○継続して「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集などを基に、教育方法の改善を促進した(3月にFD講演会を実施した)。 ○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育環境の整備を継続した(3月に学生用情報端末を更新した)。 ○外部資金や企業人材を活用した教育プログラムを実施し、教育内容の充実を図った(10月～実施済)。 ○数学、物理についてTAによる本科低学年の学習支援方法を見直し、実施した(7月～2月実施済)。 ○新任教員に対し、ベテラン教員による双方向授業参観を実施し、講義力アップを図った(5月、10月～実施済)。 ○留学生および編入学生へ学習支援の必要性について担任等に連絡し、教員による学習支援を実施した(7月実施済)。 ○モデルコアカリキュラム導入について議論し、専門分野別の達成レベルについて議論した。 ○高専改革推進経費のWEBシラバスの担当校として、研修会などの参画、入力準備を行った。 ○建築学科ではモデルコアカリキュラムの学習到達目標別に各科目の到達レベルを設定し、全体を俯瞰し、レベル調整を行った。 ○建築学科ではWEBシラバス入力のための勉強会を学科会議内、分野別に行った。 ○平成25及び26年度の企画部学生アンケート結果から、情報教育センター内のPC端末の更新を求める回答が多くあり、平成27年度当初にPC端末の設備更新を実施する(3月実施済)。 ○平成26年度企画部教職員アンケート結果から、授業評価アンケート結果を踏まえた教員各自の教育活動への自己評価について設問し、74%の教員が良好もしくはおおむね良好であると自己評価している。さらに授業評価アンケート結果をふまえた次年度への授業内容や授業方法の改善内容についての具体的な内容も集約した(2月実施済)。 ○平成26年度企画部教職員アンケート結果から、授業内容、教材、教授技術等についての継続的な工夫・改善状況について設問し、88%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的な内容も集約した(2月実施済)。 ○平成26年度企画部教職員アンケート結果から、創造性を高める学習上の工夫の実施状況について設問し、54%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的な内容も集約した(2月実施済)。</p>			達成した	教務部 キャリア支援室
<p>①-1 高専機構と連動し、「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるとともに、学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。</p>	<p>①-1 「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるとともに、学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。 ○「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進める。 ○学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進する。</p>	<p>○年度末に向けて「高専学生情報統合システム」整備を計画的に進めるため、「学生情報統合システム導入 中国地区ブロック会議」へ要望事項などをあげるとともに、会議に参加した(5～6月実施済)。 ○学生基本情報を共通化・集約化し、教務事務等の効率化・合理化を推進した。</p>	<p>○高専機構本部からの情報が少なく、学生基本情報の共通化・集約化については、あまり進んでいない。</p>	<p>○今後も高専機構本部と情報を共有して学生基本情報の共通化・集約化を推進する。</p>	達成した。	教務部 キャリア支援室

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
	<p>②JABEE認定プログラム更新のための継続審査を受審し、教育の質の向上に努めるとともに、在学中の資格取得を奨励する。</p> <p>○平成26年度にJABEE認定プログラム(複合システムデザイン工学P)の中間審査を受審し、継続的な教育の質の向上に努める。</p> <p>○特別適用専攻科の認定申請を行う。</p> <p>○資格試験の案内パンフレットを作成し、在学生に配布する。</p> <p>○在学中の資格取得状況を調査し、その結果を公表する。</p>	<p>○平成26年度にJABEE認定プログラム(複合システムデザイン工学P)の中間審査を受審し、継続的な教育の質の向上に努めた(10月実施済み)。暫定審査結果として、前回のW判定12項目がA判定5、C判定7という結果が得られ複合システムデザイン工学プログラムのJABEE認定が継続される運びとなった(11月実施済)。</p> <p>○特別適用専攻科の認定申請を行い全専攻で特別適用が認定された(5月、10月補正、実施済)。</p> <p>○6月に資格ガイドブックの作成、8月に配布を行い、資格取得の支援をおこなった。</p> <p>○年度末に資格取得者の調査を行い、彦名通信に公開した。</p> <p>○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、教職員の95%がJABEEについて意識して教育活動を実施していることを確認した。平成25年度の89%から向上が見られた(2月実施済)。</p> <p>○平成26年度企画部学生アンケートの結果から、専攻科2年生の70%以上、専攻科1年生は100%および本科5学年の50%以上がJABEEについて認識していることを確認した(2月実施済)。</p>			達成した	<p>教務部</p> <p>専攻科</p> <p>キャリア支援室</p> <p>JABEE委員会</p>
	<p>③ 学校の枠を超えた学生の交流活動を推進・奨励する。</p>	<p>③学校の枠を超えた学生の交流活動を奨励する。</p> <p>○中四国専攻科研究交流会等に参加する。</p> <p>○他高専学生寮との寮生会交流会を実施する。</p> <p>○中四国専攻科研究交流会等に参加した(4月実施済)。</p> <p>○阿南高専との寮生会役員交流会を実施した(11月実施済)。</p>			達成した。	<p>専攻科</p> <p>寮務部</p>
	<p>④エンジニアリングデザイン教育等に係る取組事例集の総合データベースを基に、特色ある教育方法を検討する。</p>	<p>④エンジニアリングデザイン教育等に係る取組事例集の総合データベースを基に、特色ある教育方法を検討する。</p> <p>○自学自習、まちづくり活動、技術プロジェクト活動などを通じて、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の育成を推進する。</p> <p>○エンジニアリングデザイン教育に関するFD研修会の開催を検討する。</p> <p>○総合データベースを基に特色ある教育方法の実践例を分析し、今後の対応を検討する。</p> <p>○技術プロジェクト活動やまちづくり活動を通して、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の開発が図れるように教育環境を改善・整備する。</p> <p>○継続して自学自習、まちづくり活動、技術プロジェクト活動などを通じて、学生の人格形成とエンジニアリングデザイン能力の育成を推進した。</p> <p>○エンジニアリングデザイン教育に関するFD研修会を実施した(3月実施済)。</p> <p>○総合データベースを基に特色ある教育方法の実践例を分析し、今後の対応を検討している。</p> <p>○空活(あきや活用)プロジェクトで、学生と地域とのコミュニケーションを図り、実際に中心市街地に学生が住み、プロジェクトを推進した。実際に空きや活用のイベントとして、外部の講師を招き講演会やワークショップを行った。また、実際に居住した学生が、空きや活用の実践事例として論文としてまとめ、対外的に発表した。さらに鳥取芸術祭のイベントとも連携し活動した。</p> <p>○全国デザコンで境港市にある江島大橋を題材に、観光の定着をはかる提案を行い、優秀賞を獲得した。またその提案をすに当たり境港市の行政と打合せを行いつつ進めた。デザコン案の他に、境港市市民会館および周辺施設の整備に関する整備計画立案に学生・建築学科教員も加わり、行政・市民団体と意見交換を行った。</p> <p>○平成26年度企画部教職員アンケート結果から、授業評価アンケート結果を踏まえた教員各自の教育活動への自己評価について設問し、74%の教員が良好もしくはおおむね良好であると自己評価している。さらに授業評価アンケート結果をふまえた次年度への授業内容や授業方法の改善内容についての具体的な内容も集約した(2月実施済)。</p> <p>○平成26年度企画部教職員アンケート結果から、授業内容、教材、教授技術等についての継続的な工夫・改善状況について設問し、88%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的な内容も集約した(2月実施済)。</p> <p>○平成26年度企画部教職員アンケート結果から、創造性を高める学習上の工夫の実施状況について設問し、54%の教員が工夫を行っていることを確認した。さらにその工夫・改善点の具体的な内容も集約した(2月実施済)。</p>			達成した	<p>教務部</p> <p>専攻科</p>
(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム	<p>⑤各界有識者による本校の評議員会を組織・開催し、外部評価を実施するなど多角的な評価の取り組みによって教育の質の保証がなされるように留意する。</p> <p>○原則として毎年度ごとに、各界有識者により組織した本校の評議員会を開催し外部評価を実施することで教育の質の保証を検証し、その維持・向上に努める。</p> <p>○平成26年度に大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受審し、その評価結果を共有する。</p>	<p>○原則として毎年度ごとに、各界有識者により組織した本校の評議員会を開催し外部評価を実施することで、教育の質の保証を維持・検討した(3月に実施済)。</p> <p>○平成26年度に大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受審した(10月実施済)。また、その暫定評価結果を運営会議・学科長会議等を通じて共有を図った(11月実施済)。さらに、大学評価・学位授与機構より評価結果(案)の提示を1月末に受け、これに対する意見書・連絡書の提出を運営会議の承認を経て行った(2月末実施済)。最終評価結果をもって、上記3月に実施の評価委員会にて報告・審議を行った。</p> <p>○上記評議員会からの特段の指摘事項は無く、機関別認証評価結果やJABEE中間審査に対する優れた取組や良好な評価結果に対し多くの賛辞を頂戴することができた。</p>			達成した	<p>運営会議</p> <p>企画部</p>
	<p>⑥インターンシップ情報の充実を図るとともに、可能な限り学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう、産業界等との連携を推進する。また、地域産業界との連携による共同教育体制を検討する。</p>	<p>⑥学生が卒業までにインターンシップに参加できるよう産業界等との連携を推進するとともに、地域産業界との連携による共同教育体制を検討し充実を図る。</p> <p>○インターンシップ情報の充実を図る。</p> <p>○県産業界振興機構、ふるさと定住機構、米子高専振興協会等と連携し、地域産業界と連携した共同教育を検討する。</p> <p>○4年担任および進路指導教員の協力も得ながら、5月中旬から6月中旬にかけてデータの更新・追加などインターンシップ情報の充実を行い、学生のインターンシップ活動を支援した。</p> <p>○県産業界振興機構、県経営者協会、ふるさと定住機構等と協力しインターンシップ事業の促進と充実をはかった(適宜)。</p> <p>○インターンシップ先を確保するために、県行政機関などと打ち合わせする他、国の就活ガイダンスなどを活用した(適宜)。</p> <p>○9月にオープンファクトリーを実施し、本科低学年生のキャリアパスの育成に役立てた。</p> <p>○インターンシップに関する講演会を、4年生に対しては4月に、3年生に対しては12月に開催し、インターンシップの動機付けと意義の再確認を行った。</p> <p>○インターンシップ前(8月)にガイダンスを実施し、インターンシップの意義の再確認と諸注意を行った。</p>			達成した	<p>教務部</p> <p>キャリア支援室</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>⑦最新の技術トレンドを取り入れた教育体制の構築・強化を図る。</p> <p>鳥取県、近隣自治体、その他産業振興組織等との連携を強め、米子高専振興協力会との連携活動や卒業生ネットワークの構築・運営を通して継続的に地域の産業振興に貢献するとともに、地域共同教育を推進する。</p>	<p>⑦最新の技術トレンドを取り入れた教育体制の構築・強化を図り、地域の産業振興に貢献するとともに、地域共同教育を推進する。</p> <p>○企業技術者による最先端技術の講演・授業を実施する。</p> <p>○地域企業の課題を卒業研究・専攻科特別研究等に取り入れ、地域企業との共同教育を行う。</p> <p>○鳥取県EV人材育成カリキュラムなどを活用した授業を実施する。</p> <p>○第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニアを講師として招き講義を行う。</p> <p>○学科同窓会を立ち上げ、そのネットワークづくりを行う。</p> <p>○非常勤講師として活用することを目的として企業技術者/研究者の調査を行う。</p> <p>○講演会や公開講座の講師として活用することを目的として企業技術者/研究者の調査を行う。</p> <p>○企業人材や外部の専門家を活用した授業の継続と充実を図る。</p> <p>○地域の建築家、技術者、行政機関職員などを非常勤講師に迎え、地域共同教育を実施する。</p> <p>○年度当初に、非常勤教師と常勤講師の意見交換会を設け、授業評価アンケートに対するFDを行う。</p>	<p>○高専機構の「企業技術者等活用プログラム」によって企業技術者を招聘し、各専門学科等において先端的トピックを紹介する講演・授業を11件実施した(その都度実施済)。</p> <p>○高専機構の「企業技術者等活用プログラム」を活用し、地域企業のニーズにもとづくテーマで卒業研究等を実施した(その都度実施済)。</p> <p>○鳥取県EV人材育成カリキュラムのうち、建築学科で「第18コマ:電気自動車をもふまえた次世代のまちづくり」を活用した講義を実施した(2月実施済)。</p> <p>○機械工学科では第3学年で開講している機械工学セミナーに、地元のエンジニアを講師として招き講義を行った。</p> <p>○機械工学科では今後の授業改善を目的とする教育懇談会(10月17日)を開催し、教育と実践(企業業務)に関する情報交換を行った。</p> <p>○学科独自の同窓会(米子工業高等専門学校電気工学科(電気情報工学科)同窓会)を立ち上げて活動を開始した。</p> <p>○非常勤講師として活用することを目的として工業高校の元教諭、大学の元教員を中心に企業技術者/研究者の調査を行った(～12月実施済)。</p> <p>○講演会や公開講座の講師として活用することを目的として企業技術者/研究者の調査を行った(7月実施済)。</p> <p>○後期から企業人材による授業を実施し、アンケートによる影響評価を行った(その都度実施済)。</p> <p>○地域企業2社、環境大学と共同で、鳥取発スマートハウス開発研究会を立ち上げ、地域の風土を活かしたデザイン、地震時に強い免震構造の計算・設計法の確立、大手メーカーの動向調査などを、卒業研究の一環として行った。今年度末に製品の発表会を企画中である。</p> <p>○年度当初に、非常勤教師と常勤講師の意見交換会を設け、授業評価アンケートに対するFDを行った(5月実施済)。</p>			達成した。	地域共同 テク/センター 各学科
<p>⑧国立高等専門学校機構本部と連動し、両技術科学大学との連携を推進し、研究・教育の分野で交流を図る。</p> <p>鳥取大学と連携しながら、継続的に鳥取県西部地域における「知の拠点」となり得る高等教育機関を指向する。</p> <p>理工系大学との授業及び共同研究の継続と充実を図る。</p> <p>地元大学との連携を推進する。</p> <p>大学進学者との懇談会を設け意見聴取を行う等、OBとの連携を通して大学教育との円滑な接続を目指す。</p> <p>設立から50年経過した高専制度を社会環境の急激な変化に対応させるために、技科大や他高専との連携を軸に専攻科を充実させ、大学工学部卒と異なる個性を持つ技術者の教育並びに地域を中心とする産業界や地方公共団体と連携した研究活動を推進する。</p>	<p>⑧理工系大学との間での連携を検討し、実施する。</p> <p>○国立高等専門学校機構本部と連動し、両技術科学大学との連携を推進し研究・教育の分野で交流を図る。</p> <p>○本校教員と鳥取大学医学部教員の共同研究を推進する。また、専攻科から鳥取大学医学部大学院への進学を支援する。</p> <p>○第5学年で開講している機械動力学に、大学から教員を招き講義を行う。また、理工系大学との共同研究を行う。</p> <p>○専攻科から共同研究先の大学院編入までの、教育の継続的なしくみをつくるための方策を検討する。</p> <p>○両技科大および地元大学に進学したOBのネットワーク(人脈)を調査・整理する。</p> <p>○技科大等との共同研究が可能な分野の検討をする。</p> <p>○技科大等と教育・研究の分野で交流可能な会の開催状況を調査する。</p> <p>○鳥取大学医学部との医工連携を推進するため、共同研究や専攻科から同医学部大学院への進学を検討する。</p> <p>○「三機関が連携・協働した教育改革」における共同研究プロジェクト等を通して連携を推進する。</p> <p>○呉高専と構造系研究交流会を行い、専攻科生・本科生による研究紹介を行い、各校の引率教員が質疑を行い、研究の醸成を行う。</p> <p>○豊橋技科大を中心とした、呉・米子の共同研究を行う。</p> <p>○鳥取県建築交流会に参加し、地域の高等教育機関における課題について意見交換を行う。</p>	<p>○両技術科学大学との連携を推進し、27年度に長岡技科大に教員を1名派遣することを決定した。</p> <p>○豊橋技科大、長岡技科大との三機関連携の今後の取り組みについて原案を作成中。</p> <p>○鳥取大学医学部生命科学科との共同研究を実施した(その都度実施済)。</p> <p>○専攻科生の鳥取大学大学院医学研究科への進学を支援し、1名が合格した(9月)。</p> <p>○機械工学科第5学年で開講している機械動力学に、大学から教員を招き講義を行っている。理工系大学との共同研究を行った。</p> <p>○福井大学大学院工学研究科との間で推薦入学に関する協定を締結した(4月実施済)。</p> <p>○早稲田大学大学院情報生産システム研究科との間で推薦入試に関する覚え書きを締結した(12月実施済)。</p> <p>○長岡技科大のパワーエレクトロニクスに関する研究室と交流を開始した。</p> <p>○長岡技科大の超電導材料に関する研究室と交流中である。</p> <p>○今年度から長岡技科大の建設系教員交流会に出席し、米子高専建築学科の取組みについて発表した。</p> <p>○広島大学生物生産学部付属竹原ステーションにて物質工学科の学生が、宇部高専の学生とともに広島大学生物生産学部の教員の指導のもと体験型の学習「水族セミナー」を受講した(7月、8月実施済)。</p> <p>○長岡技科大等との共同研究を行うための具体的な打ち合わせを行った。(2月実施済)。</p> <p>○鳥根大学総合理工学部との共同研究を継続中である(その都度実施)。</p> <p>○広島大学と干潟再生技術の共同研究を実施した(その都度実施)。</p> <p>○技科大等と高専の交流会の開催状況を学科内に随時連絡した(5月～2月)。</p> <p>○鳥取大学医学部生命科学科との高専・大学連携を検討している(その都度実施)。</p> <p>○「三機関が連携・協働した教育改革」における共同プロジェクトを実施した(その都度実施済)。</p> <p>○呉高専と構造系研究交流会を行い、専攻科生・本科生による研究紹介を行った。それについて、各校の引率教員が質疑を行い、研究の醸成を行った(9月実施済)。</p> <p>○豊橋技術科学大学との共同研究を実施した(その都度実施済)。</p> <p>○鳥取県建築交流会に参加し、地域の高等教育機関における課題について意見交換を行った。</p> <p>○本校教員が北陸先端科学技術大学院大学の教育連携アドバイザーに就任した(12月から実施)。</p>			達成した。	教務部 専攻科 各学科

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
	<p>⑨ICT活用教育に必要となる校内ネットワークシステムなどの情報基盤について、環境の整備を推進するとともに、ICTを活用した教育方法の推進・充実を図る。</p> <p>○ICT活用教育に必要となる校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を計画的に進める。</p> <p>○材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てる。</p> <p>○講義や実験資料のデジタル化状況を調査し、収集・整理に努める。</p> <p>○e-Learningシステムを利用している授業をリスト作成する。</p> <p>○Matlabを利用している授業・実験テーマのリスト作りをする。</p> <p>○CADソフトの充実と活用を図る。</p> <p>○ICTを活用した教育システムに関する教材および運用方法を調査・検討する。</p> <p>○CADソフトのネットワーク版への移行を行う。</p> <p>○他大学・専門学校、工業高校の建築系学科でのe-ラーニングの導入調査を行う。</p> <p>○CALL教室の効果的な運用やe-ラーニングの活用などを含めてICTを活用した教育を継続する。</p>	<p>○図書館改修により、授業用の情報端末を設置したメディアラボを供用開始した。(4月)さらに、ICT活用教育に必要となる校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を計画的に進めている。</p> <p>○CBTによる実用英語検定を実施した(11月実施済)。</p> <p>○機械工学科では、材料力学および設計法のe-ラーニングシステムとCADのチュートリアルソフトを紹介し自学自習に役立てた。</p> <p>○授業用スライドや、自作テキスト等の使用状況を調査中。</p> <p>○e-Learningシステムを利用している授業のリストを作成した(2月実施済)。</p> <p>○Matlabを利用している授業・実験テーマのリストを作成した(2月実施済)。</p> <p>○2年の設計製図でのCADソフトの活用を検討し、実施した(11～2月実施済)。</p> <p>○3年生の情報科学IIでは、工学構造型図画ソフトの活用を行っている(その都度実施済)。</p> <p>○「情報工学II」においてeラーニングプラットフォームmoodleを使用し、課題の提示や解答の収集、授業資料の配布などに利用した(10月実施済)。</p> <p>○物質工学実験において分子モデリングソフトWinmostarを用い、分子長の計算などを行った(5月実施済)。</p> <p>○従来から導入している3次元CADのベクターワークスを用い、3次元モデリングを行い、3次元プリンターで造形した。その成果として全国高専デザコンのCAD部門にエントリーした。</p> <p>○CALL教室の効果的な運用を検討し、e-ラーニングを活用した教育を継続した。</p> <p>○平成25及び26年度の企画部学生アンケート結果から、情報教育センター内のPC端末の更新を求める回答が多くあり、平成27年度当初にPC端末の設備更新を実施する(3月実施済)。</p> <p>・平成26年度企画部教職員アンケートから、全教員の72%が教育の中でプロジェクターなどの視聴覚機器を有効に活用していることを確認した(2月実施済)。</p>			達成した	教務部 各学科・科
①メンタルヘルスに係る知識の普及のための講習会等を実施し、学生支援・生活支援の質の向上と充実を図る。	①メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の質の向上と充実を図る。 ○メンタルヘルス関係の講習会を実施する。 ○特別支援教育士をめざす教員の支援をする。	○学年ごとのメンタルヘルス関係の講演会を5件行った。 ○1名の教員が特別支援教育士の資格を取得した。他に取得準備中の教員の旅費等の支援を行っている。 ○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、FD研修のテーマ設定および内容について、教職員の79%が適切であると考えていることを確認した。特にハイパーQ-Uアンケートや特別教育支援に関するFD研修会の内容については、教職員の85%がこれらについての教育上の意識が向上したと回答し、教員を中心に58%が教育改善やクラス経営にも役立っていると回答しており、一定の効果があることを確認した(2月実施済)。	○学生のメンタルヘルス向上に関し、保護者との連携を強化する必要がある。	○入学式後の学生相談室の紹介、広報誌(彦名通信)で保護者と学生相談室の関係の必要性を訴える。	達成した。	学生部 学生相談室
②アメニティに富んだ空間を有する図書館や寄宿舎の充実・改修など、利用実態の分析・把握を踏まえつつ計画的な整備・運用を図る。 鳥取県東中部、中山間部、県外からの入学志願者及び優秀な入学者の確保のために、寄宿舎の受け入れ体制を再検討するとともに、入寮者数の増加、女子留学生の増加、多様な学生の入寮、及び設備の老朽化を踏まえた計画的な整備を図る。 寄宿舎等施設の現況、利用状況等の実態を把握し、計画的な整備を推進する。	②図書館の充実や寄宿舎の改修など利用実態の分析を踏まえ計画的な整備を図る。 ○アメニティに富んだ空間を有する図書館や寄宿舎の充実・改修など、利用実態の分析・把握を踏まえつつ計画的な整備・運用を図る。 ○鳥取県立図書館の協力により、学生用図書・雑誌の充実を推進する。 ○寄宿舎の有効利用を考慮した生活支援整備の年次計画の見直しを行うとともに、当該年度の整備計画を策定して整備を実施する。 ○生活支援整備のための管繕工事等の予算要求を行う。 ○寄宿舎の整備計画やアメニティ空間の整備に向けた素案づくりを推進する。	○機構の現況調査などを基にアメニティに富んだ空間を有する図書館や寄宿舎の充実・改修など、利用実態の分析・把握を踏まえつつ計画的な整備・運用を図った(6月～実施中)。 ○平成26年4月のリニューアルオープンにより、交流プラザやテラスデッキを有し、くつろぎ・癒し・ゆったりとした気分を味わうことができ、設備面では利用者の要望に応えられるものとなった。学生用の図書を306冊購入し、蔵書面を充実させた。 また、一般利用者の増加を図るため、広報として、地元公民館、中学校に新着図書情報、図書館行事等をメール配信を始めた。 ○鳥取県立図書館コーナーを設置した(所蔵が少ないジャンルを中心に、県立図書館から相互貸借で借りた図書でコーナーを設置し、貸出も行った。第1回目は6月23日から2か月間350冊、第2回目は10月6日から2か月間300冊)。 ○各クラスの学生図書委員18名を鳥取県立図書館へ派遣し、図書館の利用方法等の研修を実施した(7月実施済)。 ○寮務部で、寄宿舎で生活する女子学生の増加対応を中心に寄宿舎の在り方及び男女比に対する居室の見直しや留学生対応としての補食室等環境整備も含め、中・長期計画の基盤を作成した。財務部門での計画の実効性等について検証を行った。 ○今年度の整備計画を策定し実施した。女子寮内(あさぎ寮と東寮の間)の渡り廊下の設置及び南寮等の廊下電灯のLED化を実施した。 ○管繕工事等の予算要求を行った。 ○平成26年度企画部学生アンケートの結果から、全学生の88%が教室を使いやすいと回答し、同様に97%の学生が実験実習室も使いやすいと回答していることを確認した(2月実施済)。 ○平成26年度企画部学生アンケートの結果から、全学生の58%がリニューアルオープンした図書館を利用したことがあり、94%の学生は図書館の本が充実していると感じていることを確認した(2月実施済)。 ○平成26年度企画部学生アンケートの結果から、全学生の51%がリニューアルオープンした情報教育センター内メディアラボを授業外でも利用したことがあることを確認した(2月実施済)。	○学生全体(専攻科生を含める)の平均は貸出冊数は、7.7冊/人(平成26年4月～平成27年1月末)であったが、本科第1学年は0.8冊/人(平成26年4月～平成27年1月末)で全学科とも少なかった。 ○改修には多額の費用を要することから費用の軽量化を図る方策の検討も必要である。 ○今後の学生寮の整備計画策定にあたっては、入寮生数の動向予測が必要である。これについては、入学生の確保、入学後の受け入れ体制及びキャリア支援等、今後の本校の取り組みとも密接に関連しており、全学的な問題であり、関連部署との検討・協議が必要である。	○低学年を対象とした教養書や入門書等を充実するとともに、新入生オリエンテーションにおいて図書館の活用方法を推進する。 ○現状を運営会議等へ報告し、過去の改修及び26年度実施の改修をベースに後年度の取組を検討するための組織を立ち上げる。 ○入学生の確保、入学後の受け入れ体制及びキャリア支援等に対する今後の本校の取り組みについて、教務部、学生部、専攻科、キャリア支援室等と検討・協議を行い、その結果を学生寮の整備計画に反映させる。	達成した	運営会議 寮務部 事務部
③日本学生支援機構、及び各種財団・民間の奨学金制度等の学生支援に係る情報提供を行う。	③各種奨学金制度など学生支援に係る情報の提供体制を充実させる。 ○日本学生支援機構、および各種財団・民間の奨学金制度の情報提供を行う。	○日本学生支援機構、および各種財団・民間の奨学金制度の情報提供を継続して行っている。			達成した	学生部

(5) 学生支援・生活支援等

米子工業高等専門学校 第3期中期計画		平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
(6) 教育環境の整備・活用	④ 企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を含めたキャリア支援を充実させる。	④企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を含めたキャリア支援を充実させる。 ○求人データベースの充実を図る。 ○企業見学会、大学・大学院説明会や進路セミナーを開催する。	○求人情報を各学科進路担当者が作成し、それを学生に公開することで、学生の就職活動に活用した(適宜)。 ○大学院説明会を実施し、専攻科生の進学を支援した(4月実施済)。 ○就活セミナーを開催し、学生の就職活動を支援した(2月実施済)。 ○企業・大学合同面談会を実施し、学生の就職・進学を支援した(3月実施済)。			達成した	キャリア支援室
	①-1 施設・設備の点検評価を行い、施設マネジメントの充実を図ることで、実験・実習や教育用の設備の更新、校内の環境保全、ユニバーサルデザインの導入、環境に配慮した施設・設備のメンテナンスを計画的且つ的確に実施し、安全で快適な教育環境の整備を推進する。	①-1 施設・設備の点検・評価を行い、施設マネジメントの充実を図る。 ○各室の稼働状況を調査・確認し、部屋の有効利用等を検討する。 ○設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の計画的な整備・充実を図る。 ○キャンパスマスタープランに基づく中長期的な施設の整備を図る。 ○施設/パトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施する。 ○創立50周年記念事業の一環として交流プラザを開設し、教育環境の整備を図る。	○各室の稼働状況を調査・確認し、部屋の有効利用等を検討した(6月実施済)。今後用途変更も含め、施設再利用(将来計画)の検討をインフラ整備検討委員会WGを組織し、引き続き検討中である。 ○設備整備マスタープランに基づき教育研究設備の計画的な整備・充実を図った(5月～実施中)。 ○キャンパスマスタープランに基づく中長期的な施設の整備を図った(11月～実施中)。 ○施設/パトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施した(4月～実施中)。 ○創立50周年記念事業の一環として交流プラザを開設し、教育環境の整備を図った(4月実施済)。 ○平成26年度企画部学生アンケートの結果から、全学生の88%が教室を使いやすいと回答し、同様に97%の学生が実験実習室も使いやすいと回答していることを確認した(2月実施済)。 ○平成26年度企画部学生アンケートの結果から、全学生の58%がリニューアルオープンした図書館を利用したことがあり、94%の学生は図書館の本が充実していると感じていることを確認した(2月実施済)。 ○平成26年度企画部学生アンケートの結果から、全学生の51%がリニューアルオープンした情報教育センター内メディアラボを授業外でも利用したことがあることを確認した(2月実施済)。	○平成26年度に実施した施設パトロールにおいて、安全性、老朽等注意を要すると診断した箇所について、都度修繕を行っているがその他経年劣化しているものも見受けられ、引き続き整備計画を検討する。 ○50周年を機にキャンパスマスタープランの見直しを行い、第3期中期計画を見通した計画を作成する必要がある。	○引き続き施設パトロール等を実施し、スペースの有効活用を検討する。 ○企画部主導で実施されている教職員へのアンケートを活用し、意見等を集約する。	達成した	運営会議 事務部 インフラ整備・検討委員会 環境マネジメント委員会
	①-2 安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。 ○建物の用途変更も踏まえ、必要な耐震化を推進する。	①-2 安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。 ○安全で快適な教育環境の充実を計画的に推進する。 ○建物の用途変更も踏まえ、耐震化の必要性を検討し、必要に応じて予算要求を行う。	○継続的に実施している安全管理に関する施設パトロールにおいて、点検評価アンケートを踏まえた施設点検を実施した。 ○減損会計に基づく施設稼働実態は調査済みであり、今後用途変更も含め、施設再利用(将来計画)の検討をインフラ整備検討委員会WGを組織し、引き続き検討中である。	○点検の結果、南寮非常階段のコンクリート劣化による落下等の危険箇所が発見されており、修繕計画等が急務である。 ○平成26年度に実施した施設パトロールにおいて、安全性、老朽等注意を要すると診断した箇所について、都度修繕を行っているがその他経年劣化しているものも見受けられ、引き続き整備計画を検討する。	○財務部門において、修繕計画を作成中であり、コスト削減も含めた包括的な修繕計画を予定している。 ○検討WGを開催し、引き続きスペースの有効活用を検討する。	達成した	事務部 インフラ整備・検討委員会
	①-3 PCB廃棄物の保管・管理に万全を期する。	①-3 PCB廃棄物の計画的な処理を実施する。 ○PCB廃棄物の保管・管理に万全を期する。	○蛍光灯用安定器およびそれに付帯する汚染物は10月30日に処分済み。また、微量のPCBを含む廃棄物の処分は未定だが、万全に保管・管理している。			達成した	安全衛生委員会
② 専門学科分野ごとの安全管理講習会を実施する。 安全管理のための機構等主催の講習会に積極的に参加させる。	②安全管理のための講習会に積極的に参加する。 ○AED等の講習会を開催する。 ○安全管理講習会等に参加する。 ○機構で作成する実験実習安全必携を配付し、安全意識の啓蒙に努める。	○AED等の講習会を開催し、知識・技術の取得を図った(1月実施済)。 ○他機関が実施する安全管理に関する講習会等に参加した。 ○新入学生に実験実習安全必携を配付し、安全意識の啓蒙に努めた。			達成した	安全衛生委員会	

米子工業高等専門学校 第3期中期計画		平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
	③男女共同参画や理系女子学生増(特に機械、電気・電子系学科)に向けた取り組みを積極的に推進する。 女子学生や女性教職員の生活・就業環境改善のため、女性用の更衣室、休憩室、トイレ等の整備を可能な範囲で推進する。 女性教員比率向上のための取組を推進する。	③男女共同参画に向けた取り組みを推進する。 ○男女共同参画や理系女子学生増(特に機械、電気・電子系学科)に向けた取り組みを積極的に推進する。 ○女子学生や女性教職員の生活・就業環境改善のため、女性用の更衣室、休憩室、トイレ等の整備を可能な範囲で推進する。 ○教員公募要項に、女性教員を優先する旨の記載をする。 ○仕事とライフイベントの両立支援のための情報を提供する。	○男女共同参画に関して各学科・科の教員募集要項に女性教員を積極的に募集している旨を記載した(6月・8月・10月実施済)。 ○理系女子学生増(特に機械、電気・電子系学科)に向けた取り組みをオープンキャンパスや学校説明会、また女子学生による出身中学校訪問等を通じて積極的に推進した(6月～実施中)。 ○継続的に実施している安全管理に関する施設パトロールにおいて、点検評価アンケートを踏まえた施設点検及び女子学生や女性教職員の生活・就業環境改善のため、狭隘化実態・余剰スペース確認等に関するパトロールを実施し、修繕事項等の拾い出しを行った。 ○寮務部で、寄宿舎で生活する女子学生の増加対応を中心に寄宿舎の在り方及び男女比に対する居るの見直しや留学生対応としての補食室等環境整備も含め、中・長期計画の基盤を作成した。財務部門で、この計画の実効性等について、検証を行った。 ○各学科・科の教員募集要項に女性教員を積極的に募集している旨を記載した(6月・8月・10月実施済)。 ○仕事とライフイベントの両立支援のための情報を提供し、平成26年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」における研究支援員の配置に申請、採択され、研究支援員を配置した。 ○高専女子フォーラムin中国実行委員会(6月)に参加した。12月に開催された同フォーラムで本校女子学生が専門教育・研究・学生生活について3件の発表を行った。	○改修には多額の費用を要することから費用の削減化を図る方策の検討も必要である。	○現状を運営会議等へ報告し、過去の改修及び26年度実施の改修をベースに後年度の取組を検討するための組織(WG)を立ち上げる。	達成した	運営会議
	①全国規模の研究シーズ発表の奨励及び科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに獲得率向上に向けた取り組みを実施する。 各種の連携イベントに参加する。 全国規模のフェアに出展・参加する。 科研費の獲得に向けた活動を活性化させる。	①全国規模のシーズ発表の奨励及び科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに獲得に向けた取り組みを実施する。 ○全国規模の研究シーズ発表の奨励、及び科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに、FDやプレレビューなど獲得率向上に向けた取り組みを実施する。 ○第12回全国高専テクフォーラム、とっとり産業フェスティバル2014などへ参加し、研究成果や技術シーズを発表する。 ○JUSTイノベーション・ジャパン2014-大学見本市など、全国規模のフェアへ研究成果や技術シーズを出展する。 ○科研費に関するFD研修会や、申請書のプレレビューを実施する。	○全国規模の研究シーズ発表の奨励及び科学研究費補助金等の外部資金獲得を奨励するとともに、複数回の科研費説明会や外部資金獲得に向けたFD、科研費申請書プレレビューなど獲得率向上に向けた取り組みを実施した(9月実施済)。 ○「第12回全国高専テクフォーラム(8月実施済)」「とっとり産業フェスティバル2014(9月実施済)」において、地元企業との共同研究の成果事例等を発表した。 ○「JUSTイノベーション・ジャパン2014(11月実施済)」にて教員シーズを発表した。 ○他高専の校長3名を招聘し、外部資金獲得も含めた今後の教育・研究のありかたを検討する教育懇談会を実施した(9月実施済)。 ○鳥取県環境学術研究等振興事業(補助金)について、担当者との意見交換・個別相談会を実施し、外部資金獲得を奨励した(8月実施済)。 ○H26年度科研費の申請に対し、産学連携コーディネータによる申請書のフォローアップを1件実施した(9月実施済)。 ○H27年度科研費の申請に対し、校長、及び産学連携コーディネータによる申請書のプレレビューを39件実施した(10～11月実施済)。 ○H27年度鳥取県環境学術研究等振興事業(補助金)の申請に対し、産学連携コーディネータによる申請書のプレレビューを4件実施した(2月実施済)。			達成した。	運営会議 地域共同 テクノセンター
2・研究や社会連携に関する事項	②産学官連携活動の強化・推進を図る。 各種のフェアやメディアを通じた情報発信を行う。	②産学官連携活動の強化・推進を図るとともに、各種のフェアやメディアを通じた情報発信を行う。 ○米子高専振興協会会員企業に対するアンケート結果(H25年度実施)から、満足度を向上させるための方策を検討する。 ○産学連携コーディネータを配置し、企業ニーズの掘り起こしや教員シーズとのマッチングを図る。 ○テクノセンター鳥取オフィスを拠点とし、鳥取県の東・中部地区における産学連携活動を展開する。 ○「包括連携協力協定」締結先との連携事業・連携研究の充実、拡大を図る。 ○大阪合同ビジネス交流会(鳥取大学・鳥取県産業技術センター・神戸高専と合同)に参加し、研究成果や技術シーズを発表する。	○振興協力会アンケート結果より、参加者が少ない東部地区企業見学会を中部地区で実施(9月実施済)、オープンファクトリーの実施方法の見直し(9月実施済)、卒業生ネットワークポータルサイトへの求人情報の掲載(適宜実施済)などの対応をとった。 ○コーディネータを2名採用し、振興協会を中心に企業ニーズの掘り起こしを行い、教員シーズとの結びつけを行った(その都度実施済)。 ○近隣の商工会議所が主催するビジネスマッチング事業にシーズ登録し、1件の商談依頼があった(10月実施済)。 ○鳥取オフィスにてコーディネータによる技術相談を15件実施した(その都度実施済)。 ○鳥取県産業技術センターと連携して「3次元データ活用研究会」を組織し、3Dプリンタに関する講演会・講習会などを7回実施した(その都度実施済)。 ○鳥取県商工労働部との意見交換会を実施し、事業化予算申請にかかわる教員シーズを提供した(11月実施済)。 ○大阪合同ビジネス交流会は、取りまとめ役である鳥取大学より、今期は開催しないとの通知があった。 ○鳥取県・米子市・鳥取大学などと連携し、県西部地区でのFabLabの開設に向けた準備活動を行った(その都度実施済)。			達成した	地域共同 テクノセンター
	③知的財産活動を推進する。 各種のマッチングシステムを活用し、発明案件の知財化を推進する。	③知的財産活動を推進し、発明案件の知財化を推進する。 ○知的財産に関するFD研修会を実施する。 ○産学連携コーディネータによる知財化活動のノウハウを収集する。	○知的財産に関する教職員向けFD研修会を実施した(3月実施済)。 ○中国地区拠点校コーディネータを中心に、全国高専の知財活用事例等の情報を収集した(適宜実施済)。			達成した	地域共同 テクノセンター

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
④シーズ集と活動報告を発行する。 研究者データベースへの登録・データ更新を推進する。 ホームページやメディアを活用した情報発信を推進する。	④シーズ集やホームページ・メディアを活用した情報発信を推進する。 ○「米子高専シーズ集2014」・「H25年度テクノセンター活動報告」を発行する。 ○JUSTの「researchmap」への登録を校内に啓蒙する。 ○ホームページや新聞、テレビ、ラジオ放送等のメディアを介した情報発信を行う。	○「米子高専シーズ集2014」・「H25年度テクノセンター活動報告」を発行した(5月実施済)。 ○JUSTの「researchmap」への登録・更新を校内に啓蒙した(適宜実施済)。 ○ホームページや新聞、テレビ、ラジオ放送等のメディアを介した情報発信を行った(適宜実施済)。 ○CPAS Net(中国地域産学官連携コンソーシアム・ポータル)へ教員シーズを掲載した(9月実施済)。			達成した	地域共同 テクノセンター
⑤公開講座・出前講座に地域ニーズに即したテーマを設定する。 満足度アンケート調査を行い、内容や実施方法の改善を図る。	⑤公開講座・出前講座に地域ニーズに即したテーマを設定し、満足度の向上を図る。 ○公開講座・出前講座・ジョイント講座等の内容の刷新に努める。 ○各種講座においてアンケート調査を実施し、講座内容の改善と満足度の向上に役立てる。 ○講座の刷新に向け、地域ニーズの把握のためのアンケート調査を行う。 ○外部機関との連携を図り、実施内容の重複回避や分担実施に努める。	○中学生向けの講座であるエンジョイ科学館の拡充を図り、過去最多の118名の参加があった(7月実施済)。 ○各種講座においてアンケート調査を実施し、満足度等を把握(公開講座平均97%、出前講座平均99%)すると同時に講座内容の改善を図った(その都度実施済)。 ○米子市文化財団、わかとり科学技術育成会等と連携した科学技術講座を14件実施した(その都度実施済)。 ○ものづくり道場と連携し、双方に講座を分散させることで効率的に実施した(その都度実施済)。	○地域貢献としての公開講座・出前講座は成熟期に入っており、将来に向けた戦略的な事業展開を考える必要がある。	○中学生向けの講座の見直し、増強を行う。 ○公開講座の受講者決定を抽選方式に改め、落選者に代替講座・イベント等を紹介する。	達成した	地域共同 テクノセンター
①-1 社会のグローバル化に対応し得る人材育成を図るため、語学教育に力を注ぐとともに、地域特性を活かした隣国韓国の学術・教育機関との交流を中心として、学生参加型の国際交流を推進する。 海外の大学等高等教育研究機関との国際交流及び学術交流などの交流協定締結を図り、協定に基づく交流プログラムの企画・試行を行う 国際協力機関(JICA、JICEなど)などが行う海外との交流事業への参加を促す。	①-1 社会のグローバル化に対応し得る人材育成を図るため、語学教育に力を注ぐとともに、地域特性を活かした隣国韓国の学術・教育機関との交流を中心として、学生参加型の国際交流を推進する。 ○国際性の涵養のため、LHRなどで国際交流員などの外国人による講演などを実施する。 ○在校生の海外発表や海外語学研修を奨励する。 ○海外インターンシップ制度を周知し、参加を奨励する。 ○海外の大学等高等教育機関との交流協定締結を図り、マレーシア工科大学には在外研究員を派遣して同学との連携強化を検討すると共に、交流協定を締結している南ソウル大学校との交流プログラムに関する連絡・調整及び企画を行う。 ○日本国際協力センター(JICE)や科学技術振興機構(JST)が行う海外との交流事業に関し、情報提供、連絡・調整及び交流プログラムの企画を行う。	○国際性の涵養のため、LHRなどで国際交流員などの外国人による講演などを実施した(本科1年生に対しては11月実施済)。 ○在校生の各種海外発表や海外語学研修を奨励し、ISTS 2014に専攻科生1名、The 7th International Symposium on Surface Scienceに専攻科生1名が参加した。 ○海外インターンシップ制度を周知し、参加を奨励した(本科生は6月、専攻科生は8月実施済)。 ○高専生のための英語キャンプ(8月)、中国地区高専・海外協定校「合同研究発表会 in Korea」(11月)に学生を派遣し、シンガポール技術英語研修(3月)及びマセク・ポリテクニク技術英語研修(3月)に学生が応募・採択された。「合同研究発表会 in Korea」では、派遣学生が、Presentation Awardを受賞した。 ○マレーシア工科大学に在外研究員を派遣(4月実施済)し、南ソウル大学校による「海洋漂着ゴミを通して日韓の環境を考える」研修の受入を行った(6月実施済)。 ○海外研修旅行(韓国文化体験研修)及び国際交流に基づく教職員派遣研修を実施した(9月実施済)。 ○JENESYS2.0(JICE)受入に応募した(4月)。			達成した	国際交流 教務部 専攻科
①-2 海外インターンシップ実施に向け協定校と協議するなど参加する学生を積極的に支援し、継続して推薦する。 学生の海外留学支援のため、日本学生支援機構(JASSO)への奨学金申請を行うと共に、学校の国際化やグローバル人材教育推進に資するため国際交流基金の創設・運用と、併せて国際団体が行う海外留学プログラムに関する情報提供を図る。	①-2 海外インターンシップ実施に向け協定校と協議するなど、海外での学生の活動を推進する。 ○海外インターンシップの開催について学生に周知を図る。 ○交流協定締結校(韓国・南ソウル大学校)との交流プログラムを中心として日本学生支援機構(JASSO)への奨学金申請を行い、環日本海ゲートウェイ拠点校として、他高専とのコラボレーションも推進する。 ○交流協定締結校(韓国・南ソウル大学校)と、相互インターンシップ実現に向けた協議に入る。 ○教員や学生の国際的な会議・学会などへの参加により国際性の涵養に役立てる。 ○国際発表・交流会への学生の参加を推進する。 ○海外の大学へ教員を派遣する。 ○海外留学や海外インターンシップ、その他交流を希望する学生を継続的に調査するシステムを作る。 ○継続的に希望学生を調査するシステムを検討する。 ○各種プログラムへの学生の参加を積極的に推進する。 ○各学年の年初のガイダンスで海外インターンシップや留学に関する説明を行う。 ○海外での学生活動のための予算獲得を行う。	○海外インターンシップの開催について学生に周知を図った(本科生は6月、専攻科生は8月実施済)。 ○海外留学支援制度(協定受入・協定派遣)奨学金申請(JASSO)を行い(10月)、協定派遣申請が採択された。舞鶴高専海外研修旅行(11月)及び中国地区高専・海外協定校「合同研究発表会 in Korea」(11月)を南ソウル大学校で実施した。 ○南ソウル大学校との間で研修及び相互インターンシップに関する覚書を締結した(4月)。 ○北東アジア地域大学教授協議会(7月)に教員を、ISTS2014(11月)に採択学生を派遣し、ISTS2014では派遣学生がPresentation Awardを受賞した。 ○留学生交流シンポジウム(6月)、鳥取県・東アジア多地域連携青少年スポーツ交流事業(7月)、中国地区高専・海外協定校「合同研究発表会 in Korea」(11月)に学生を派遣し、全国高専サッカー連盟選抜チーム・ドイツ遠征(3月)に選抜学生の派遣を予定している。 ○国際交流会(南ソウル大学)に学生を参加させた。 ○マレーシア工科大学に在外研究員を派遣した(4月)。 ○英語で研究発表を行うために必要な知識や技術を身に付けさせる演習を授業に取り入れた。 ○海外留学、その他交流を随時学生に連絡し、希望学生を調査した(4~2月実施済)。 ○継続的に希望学生を調査するシステムについて検討した(2月実施済)。 ○Challenges in Organic Chemistry, Shanghai(イギリス化学会)に参加した(8月実施済)。 ○IGNITE2014(Penang, Malaysia)に参加した(12月実施済)。 ○創立50周年記念事業の一環として国際交流基金を創設した(3月実施済)。	E) ○国際交流会への参加は、経費の問題もあるが、継続していくことが課題である。 D) ○海外留学や海外インターンシップを希望する学生を継続的に調査する具体的方法を今後決定し、実施する。	E) ○日頃から学生に国際交流の重要性を説き、動機付けを図っておく。 D) ○海外留学や海外インターンシップを希望する学生を継続的に調査する具体的方法を今後決定し、実施する。	達成した	国際交流 教務部 専攻科 キャリア支援室 各学科・科

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>②留学生を受け入れるための整備を推進するとともに、留学生相互の交流を図る取り組みを実施する。</p> <p>留学生の受入拡大や快適な居住環境の確保のため、必要に応じた寄宿舎の整備を図る。</p> <p>国際交流活動の中で日本留学に関する広報を行う。</p> <p>学校の国際化やグローバル人材教育に資するため国際交流基金の創設・運用を図る。</p> <p>留学生教育の整備・充実に向けた検討を行う。</p> <p>留学生の受入推進及び教育環境整備を推進する。</p>	<p>②留学生を受け入れるための整備を推進するとともに、留学生相互の交流を図る取り組みを実施する。</p> <p>○留学生控室を整備・充実する。</p> <p>○留学生交流プログラムに参加させる。</p> <p>○女子留学生の増加に対する当該年度の整備計画を策定して整備を実施する。</p> <p>○交流協定締結校、国際協力機関、地方自治体と連携し行う国際交流活動の中で日本留学に関する広報を行う。</p> <p>○米子高専後援会(保護者会)などとの連携や創立50周年記念事業の一環として国際交流基金の創設・運用を図る。</p> <p>○留学生交流促進センターや地方自治体などが行う留学生教育の整備・充実に向けた連絡会に参加する。</p> <p>○留学生的のための地元ホスト・ファミリの実現に向け検討する。</p>	<p>○留学生控室を整備・充実した(3月実施済)。</p> <p>○中国地区留学生交流シンポジウムに留学生1名を参加させた(6月実施済)。</p> <p>○留学生の地域交流活動を推進するため公民館行事へ参加させた(12月実施済)。</p> <p>○「海洋漂着ゴミを通して日韓の環境問題を考える」研修のため来日した南ソウル大学生に対し高専への留学制度に関する説明を行った(6月実施済)。</p> <p>○寮務部で、寄宿舎で生活する女子学生の増加対応を中心に寄宿舎の在り方及び男女比に対する居室の見直しや留学生対応としての補食室等環境整備も含め、中・長期計画の基盤を作成した。財務部門での計画の実効性等について、検証を行った。</p> <p>○創立50周年記念事業の一環として国際交流基金を創設した(3月実施済)。</p> <p>○留学生・国際交流担当者研究会(7月)、鳥取県留学生交流推進会議(12月)、中国地区高専学生国際交流支援コンソーシアム連絡会(1月)に教職員を派遣した。</p> <p>○地元ホスト・ファミリの実現に向けボランティア団体との協議を開始(4月)し、一般家庭との交流(1月、2月)を開始した。</p>	<p>○改修には多額の費用を要することから費用の軽量化を図る方策の検討も必要である。</p> <p>○来年度はさらに女子留学生が2人増える予定であり、共用スペース(補食室、シャワールーム、談話室)の確保が問題となっている。</p>	<p>○現状を運営会議等へ報告し、過去の改修及び26年度実施の改修をベースに後年度の取組を検討するための組織を立ち上げる。</p> <p>○当面は、現在の共用スペース(ゆづり寮1階療養室1室)を6人で利用する予定である。手狭であった場合には、屋外に専用の補食室を設けるなどの対策を講じる。</p>	<p>達成した</p>	<p>国際交流 教務部 寮務部 事務部</p>
<p>③ 留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行の実施を継続するほか、国際交流活動の一つとして捉え、その他の留学生に関する行事も実施する。</p>	<p>③留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などの機会を学校の枠を越えて毎年度提供する。</p> <p>○留学生研修旅行を年1回実施する。</p> <p>○留学生の要望・勉強上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施する。</p> <p>○指導教員や学生チューターを交えた留学生との情報交換会を実施する。</p>	<p>○留学生研修旅行を実施した(3月実施済)。</p> <p>○留学生の要望・勉強上の問題点を早期に把握し環境改善に生かすため、教務部・留学生の小規模交流会を実施した(4月実施済)。</p> <p>○指導教員や学生チューターを交えた留学生との情報交換会を実施した(5月、2月実施済)。</p> <p>○実社会で活躍中の留学生OBと在籍中の留学生との交流会を企画し、実施した(3月実施済)。</p>			<p>達成した</p>	<p>教務部</p>
<p>①中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、本校独自の特色ある運営が可能となるよう効果的・戦略的な資源配分を行う。</p>	<p>①中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、本校独自の特色ある運営が可能となるよう効果的・戦略的な資源配分を行う。</p> <p>○中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、地域に根ざした本校独自の特色ある運営が可能となるよう効果的・戦略的な資源配分を行う。</p>	<p>○中期計画・年度計画の確実かつ円滑な達成を目指し、地域に根ざした本校独自の特色ある運営が可能となるよう予算委員会等を通じて効果的・戦略的な資源配分を行った(7月実施済)。</p>			<p>達成した</p>	<p>運営会議</p>
<p>②本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に毎年度参加者を募る。</p>	<p>②本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に参加する。</p> <p>○本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に毎年度参加者を募り参加を促す。</p>	<p>○本校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員を対象とした「教員研修(管理職研修)」に教務主事が参加した(7月)。</p>			<p>達成した</p>	<p>運営会議</p>
<p>③財務に関する業務の見直しを行い、集約化・効率化を検討する。</p>	<p>③財務に関する業務の見直しを行い、集約化・効率化を推進する。</p> <p>○財務に関する業務の見直しを行い、集約化・効率化を検討し、対応できるものから実施する。</p>	<p>○財務関係データの共有化、集約化を図り、各種調査に迅速に対応できるようにした。</p> <p>○保存書類の整理・集約化により、有効スペースを抛出し利活用できた。</p>			<p>達成した</p>	<p>事務部</p>
<p>④教職員ひとり一人が高い倫理力を持って本校のミッションに対応できるよう、全教職員のコンプライアンス意識向上を図る。</p>	<p>④全教職員のコンプライアンス意識向上を図る。</p> <p>○「コンプライアンス・マニュアル-教職員の行動指針-(国立高専機構)」に基づく全教職員に対するアンケートや、新任教職員オリエンテーションや各種研修会における「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(文部科学大臣決定)」の趣旨説明などによって、教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。</p> <p>○新任教職員を対象としたオリエンテーション等の機会を利用して説明周知を行い、教職員の意識向上に努める。</p>	<p>○「コンプライアンス・マニュアル-教職員の行動指針-(国立高専機構)」に基づく全教職員に対するアンケート実施、新任教職員オリエンテーションや各種研修会における「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(文部科学大臣決定)」の趣旨説明などによって、教職員のコンプライアンス意識の向上を図った(10月実施済)。</p> <p>○新任教職員を対象としたオリエンテーション等の機会を利用して説明周知を行い、教職員の意識向上に努めた(4月実施済・現在も実施中)。</p>	<p>○オリエンテーションの時間では不十分と考える。</p>	<p>○平成27年度からは時間をかけ、オリエンテーションとは別の機会に実施する。</p>	<p>達成した</p>	<p>運営会議 事務部</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>⑤情報セキュリティに関する監査体制の充実を図る。 各監査の監査結果について、速やかに検討を行い対応する。</p>	<p>⑤各監査の監査結果について、速やかに検討を行い対応する。 ○年1回の独自監査を実施し、監査結果の分析検討を行い、課題解決に努める。 ○情報セキュリティに関する研修会を積極的に開催し、教職員の情報セキュリティに対するコンプライアンス意識の向上を図る。 ○高専機構IT資産管理システムによる年1回のソフトウェア検査を実施し、全てのパソコンの登録に努める。 ○ソフトウェア及びパソコン管理体制を充実する。 ○監査結果への迅速な対応とともに期末における決算に関する検証を継続的に実施する。</p>	<p>○年1回の情報セキュリティ運営体制に関する第3者機関による独自監査を実施し、監査結果の分析検討を行い、課題解決に努めた(12月実施済)。 ○教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行いコンプライアンス意識の向上を図った(8月実施済)。 ○情報セキュリティ教育(eラーニング)を7月から9月まで実施し、全教職員が受講した。 ○高専機構IT資産管理システムによる年1回のソフトウェア検査を実施し、全てのパソコンの登録に努めた(6月・1月に実施済)。 ○学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を新入生オリエンテーション、特別講演会やLHRなどを通じて実施した(4月～実施中)。 ○IPアドレス指定による教員業務用パソコンの入力管理システム構築とその運用の徹底を行った(4月～実施、10月完了)。 ○Windows XP OSのサポート終了に際し、新OSの登録状況と旧OSの扱いに関する調査を実施し、情報システムのセキュリティ管理に努めた(6月実施済)。 ○会計検査院による決算検査報告及び会計監査人による外部監査における指摘事項又は検査概要について、本校に照らし合わせ実態確認を実施した。 検証例として、 ※平成24年度決算検査報告における指摘等については教職員を対象とした勉強会等により周知のうえ、事務担当者レベルではその重要性等についての認識等事務処理の正常化は図れた。 ※平成25年度監査覚書の内容では本校が直接指摘を受けているものではないが実態を照らし合わせ、検証を行った結果、問題は見つからなかった。 ○25年度期末から債権債務確認、物品検査等期末決算を正常化させるための日常監査のフォローアップを実施した(1月実施済)。</p>			達成した	情報管理室 事務部
<p>⑥「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を目指すとともに、必要に応じてその運用を見直す。</p>	<p>⑥「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を目指す。 ○各定期検査の実施および期末における決算の正常化を目的とした検証作業を実施する。</p>	<p>○会計検査院による決算検査報告及び会計監査人による外部監査における指摘事項又は検査概要について、本校に照らし合わせ実態確認を実施した。 ○公的研究費等の管理・監査に関するガイドライン改正に伴い教職員を対象とした講習会(12月実施)により周知のうえ、事務担当者レベルではその重要性等についての認識等事務処理の正常化は図れた。また、都合により受講できなかった者については講習会映像により別途受講することを可能とした。</p>			達成した	事務部
<p>⑦事務職員や技術職員の能力の向上のため、機構本部や文部科学省、地方自治体等が主催する研修などに職員を積極的に参加させる。</p>	<p>⑦事務職員や技術職員の能力の向上のため、機構本部や文部科学省、地方自治体等が主催する研修などに職員を積極的に参加させる。 ○機構主催及び大学法人・高専等主催の研修ならびに各種講習会に参加させるとともに企業が実施する研修ならびに各種講習会へも積極的に参加させ、企業インターンシップについても検討する。 ○職務に関して特に高く評価できる成果が認められる者を高専機構職員表彰に推薦する。 ○支援センター主催の部内研修を実施する。</p>	<p>○研修ならびに各種講習会への参加については、公的研修のほかに企業が主催する研修や講習会に積極的に参加させた。また、企業インターンシップについて、他高専での情報を収集した。 ○高専機構職員表彰に職員を推薦し、理事長賞を受賞した。 ○支援センター主催の部内研修で、平成26年度に実施した公開講座の実施内容についての検討・製作・検証・提言を行った(3月実施済)。</p>			達成した	事務部 技術教育支援センター
<p>⑧事務職員及び技術職員の人事交流を引き続き推進する。</p>	<p>⑧事務職員及び技術職員に関する人事交流が円滑に行えるよう体制を整備する。 ○事務職員及び技術職員の人事交流が円滑に行えるよう体制を整備する。 ○中国地区の高専間での技術職員の人事交流について、中国地区高専技術長会議で検討する。</p>	<p>○技術職員の人事交流については、中国地区高専技術長会議の中で各校の現状についての情報交換及び意見交換を行った。</p>			達成した	事務部 技術教育支援センター

4・管理運営に関する事項

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>⑨教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行う。 ○学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を図る。 情報セキュリティ運営体制に関し、定期的に第3者機関による監査を実施する。 情報セキュリティ対策を適切に推進する。 高専統一システムに係る環境整備を推進する。</p>	<p>⑨適切な情報セキュリティ対策を推進する。 ○教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を年1回行う。 ○学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を講演会などを通じて実施する。 ○情報セキュリティ運営体制に関し、第3者機関による独自監査を原則として毎年度実施する。 ○各実施手順書を順次作成する。 ○年1回の独自監査を実施し、監査結果の分析検討を行い、課題解決に努める。 ○年1回のパソコン・ソフトウェア検査を実施する。 ○平成30年度機構統一校内LAN導入に向けての準備を進める。 ○高専機構IT資産管理システムの導入推進を図る。</p>	<p>○教職員に対し情報セキュリティに関する研修会を行いコンプライアンス意識の向上を図った(8月実施済)。 ○学生に対する情報セキュリティ意識の啓蒙・強化を新入生オリエンテーション、特別講演会やLHRなどを通じて実施した(4月～実施中)。 ○IPアドレス指定による教員業務用パソコンの入力管理システム構築とその運用の徹底を行った(4月～実施、10月完了)。 ○Windows XP OSのサポート終了に際し、新OSの登録状況と旧OSの扱いに関する調査を実施し、情報システムのセキュリティ管理に努めた(6月実施済)。 ○年1回の情報セキュリティ運営体制に関する第3者機関による独自監査を実施し、監査結果の分析検討を行い、課題解決に努めた(12月実施済)。また、その結果をもとに実施手順をより簡潔にした情報セキュリティガイドを作成した。 ○高専機構IT資産管理システムによる年1回のソフトウェア検査を実施し、全てのパソコンの登録に努めた(6月・1月に実施済)。 ○平成30年度高専機構統一ネットワークの調査(5月、10月)に対応し、ネットワークの構成を高専機構の基本方針に沿った形で見直した。 ○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、全教職員の93%が「情報セキュリティポリシー」や「情報セキュリティに関する研修会」を通じて情報セキュリティへの意識が向上したことを確認した(2月実施済)。 ○平成26年度企画部教職員アンケートの結果から、全教職員100%が学生の個人情報の取り扱いについて適切に日頃から配慮を行っていることを確認した(2月実施済)。</p>	<p>○機構本部の情報セキュリティポリシーが変更される可能性があるため、順次修正する必要がある。</p>	<p>○実施手順や情報セキュリティガイドは定期的に見直し、順次修正する。</p>	<p>達成した</p>	<p>情報セキュリティ 委員会 情報管理室</p>
<p>⑩機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。なお、その際には、学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。</p>	<p>⑩機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。 ○機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。 ○学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を平成27年度に向けて検討する。</p>	<p>○機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定めた(6月実施済)。 ○学校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を平成27年度に向けて検討中である。</p>			<p>達成した</p>	<p>運営会議</p>
<p>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 業務運営の効率化を図る観点から、更なる共同調達の推進や一般管理業務の外部委託の導入等により、一層のコスト削減を図る。 平成19年度に策定した随意契約見直し計画に基づき、一層の取り組みを推進する。</p>	<p>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ○前期を踏襲した戦略的かつ計画的な資源配分を行う。 ○契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性の原理を活用した執行により生み出された資源の有効利用に努める。</p>	<p>○原資枯渇状況であり、上限額等を見直し(減額し)、教育研究活性化経費を計画し、募集及び採択した。現在、27年度の資源配分に関し、骨格から見直し配分方針については運営会議で承認された。 ○一般競争により競争性は確保し、僅少であるが資源の有効利用に引き続き努めている。</p>			<p>達成した</p>	<p>事務部</p>
<p>III 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 外部資金の獲得に努め、自己収入の増加を図る。 各種補助金への申請を奨励する。 継続的で効率的な予算配分を実施するために可能な限り増収方策の検討し、実施する。</p>	<p>III 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 ①外部資金の獲得に努め、自己収入の増加を図る。 ○産学連携コーディネータを配置し、技術相談から共同研究・受託研究への展開を図る。 ○科研費以外の各種の補助事業に対し、シーズがマッチする教員へ申請を打診する。 ○産学連携コーディネータによる、企業向け補助金への参画支援、申請に関するアドバイスを行う。 ○増収方策の一環として、校内の自動販売機の自営化を図る。</p>	<p>○経済産業省の3Dプリンタ拠点整備事業に応募し、採択された(5月実施済)。 ○コーディネータを2名採用し、振興協力企業を中心にシーズ・ニーズマッチングを行い、共同研究3件、受託研究2件、寄附金5件等の受け入れにつなげた(その都度実施済)。 ○各種の補助事業に関する情報をメールや掲示で周知し、関連が深い教員へは直接情報提供を行った(その都度実施済)。 ○産学連携コーディネータによる、JSTのA-STEP等への申請に関するアドバイスをを行った(その都度実施済)。 ○26年4月から自動販売機設置契約により校内にあるすべての自動販売機を本校管理とし、自己収入方策を実施した。</p>			<p>達成した</p>	<p>地域共同 テクノセンター 事務部</p>
<p>VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 教育研究の推進や学生の福利厚生の改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定する。 施設マネジメントの充実を図り、教育研究活動に対応した適切な施設の確保・活用を計画的に進める。</p>	<p>VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1. 施設及び設備に関する計画 ○教育研究の推進や学生の福利厚生のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定する。 ○施設/パトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施する。</p>	<p>1. 施設及び設備に関する計画 ○教育研究の推進や学生の福利厚生のために必要な施設設備の新設、改修、増設等の計画を策定した(5月～実施中)。 ○施設/パトロールを中心に安全管理に万全を期し、必要に応じた整備を実施した(4月～実施中)。 ○減損会計に基づき施設稼働実態は調査済みであり、今後用途変更も含め、施設再利用(将来計画)の検討をインフラ整備検討委員会WGを組織し、引き続き検討中である。 ○安全管理に関する施設/パトロールは継続的に実施している。</p>			<p>達成した</p>	<p>運営会議 事務部</p>

米子工業高等専門学校 第3期中期計画	平成26年度 年度計画	活動内容	課題・問題点	改善策	実施 結果	主たる 担当部署
<p>2 人事に関する計画 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。</p>	<p>2. 人事に関する計画 ○教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。 ○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼する。 ○各学科・科から提出された資料をもとに、運営会議で受入と派遣計画を策定し、学科長会議に報告する。</p>	<p>○教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図った(4月～実施中)。 ○各学科・科に高専・両技科大間教員交流における受入希望分野および派遣候補者の推薦を依頼した(6月実施済)。 ○各学科・科から提出された資料をもとに、運営会議で受入と派遣計画を策定し、学科長会議に報告した(10月実施済)。</p>			達成した	運営会議 事務部